

## 国立台湾大学所蔵の

### 旧台北帝国大学歴史的心理学機器について

大山 正(日本大学)・西川泰夫(放送大学)・苧阪直行(京都大学)・荒川 歩(立命館大学)

国立台湾大学所蔵の旧台北帝国大学(1928-1945)の歴史的心理学機器については、国立台湾大学大学院修了の高雄医学大学心理学系副教授櫻井正二郎氏が2005年11月より予備調査され、その結果を写真とともに

Website : <http://www.psy.kmu.edu.tw/~sakurai/japanese/jpa-history/kikai.html> に掲載された。これを見ながら、大山と苧阪らが、京都大学所蔵の歴史的機器、Zimmermann 社・Stoelting 社のカタログ、文献、関連 Website 等と照合して、推定を行っていた(苧阪, 2000; Popplestone & McPherson, 1994; Popplestone & Tweney, 1997)。

2006年2月14日から18日まで大山・西川・荒川が台北に訪問し、櫻井氏を通して協力を依頼していた現国立台湾大学心理学系主任梁庚辰教授の全面のご協力を得て、高雄から出張された櫻井氏とともに現地調査を行った。対象となる機器は、心理学系の建物の地下の会議室の周囲の壁面に置かれた棚に収納されていた。以下ではそのうち台北帝大から移管されたと推定される機器のみ約30点に就いて述べる。

現地調査では、機器全体の観察とデジタルカメラによる撮影、巻尺と定規による寸法計測、メーカー等のプレートの視認を行った。また台湾大学図書館に保管されていた書類の中から、台湾大学に移管後の心理学機器のリスト「文学院校産調査表 哲学系 心理学研究室〔機器〕」を見つけて、そのコピーとの照合も行った。このリストの作成時期は明記されていないが、題名から1945年の台湾大学設立後で心理学系が独立する1949年以前の哲学系に所属していた時代と推定される。( <http://www.psy.ntu.edu.tw/e-web/history.htm> ) 同リストの整理番号(案號)が民国37年(1948年)の書類に挟まれていた点からも、この推定は裏づけられる。

付表に31点機器の番号(本報告中の番号と櫻井氏の Website での番号)分類、日本語、英語、中国語(前記リスト所載)、寸法(幅 W, 奥行き D, 高さ H, mm単位)、機器に付けられたプレートに記されたメーカーあるいは代理店名、特徴、カタログとの照合などを表記した。付図には上記番号順に大山または櫻井氏の撮影した写真と関連資料の写真と図を示した。掲載の写真が不明瞭な場合は上記の櫻井氏の Website でより明瞭な写真を参照されたい。

機器全体の傾向はドイツ的伝統の視覚・聴覚実験機器とアメリカ的な動作検査器を含み、ドイツに留学し両眼視の実験的研究をして来た飯沼教授とアメリカで Ph.D.

をえた力丸助教授両者の影響が認められる（大泉，2003）。動作検査器に就いては、民族間の適性比較という側面があると考えられる。また二人とも東大在学中に動作研究を重んじる松本亦太郎教授の薫陶を受けている。

メーカーを示すプレートはドイツの Zimmermann 社とアメリカの Stoelting 社のものが多いが、同時に Shimadzu Seisakusho（島津製作所）のプレートもついたものが少なくない。No.1の機器のように Imported by Shimadzu Seisakusho と明記されたものもあり、その後の調査により島津製作所が Zimmermann 社・Spindler & Hoyer 社などの代理店を勤めていたことが島津創業記念資料館所蔵の同社「物理器械目録」（1929）で明らかとなった。<http://www.shimadzu.co.jp/forest/> なお“Shimadzu”というスペルは同社創業者島津源蔵以来のものとのことである。

なかでも注目すべきは No.2 の大きな回転鉄輪のついた機械は、1910 年に Max Wertheimer が Frankfurt 大学で仮現運動の研究に用いたもの（上村，1994；吉村，2006）と類似の Schumann 式の瞬間露出器と推定される。写真添付のメールで意見を尋ねた Frankfurt 大学の Sarris 教授も同意見であった。前出の「文学院校産調査表」には「Schumann 氏連続瞬間露出器」と記されている。ただし、Frankfurt 大学に所在した Schumann 式瞬間露出器（現在は Passau 大学心理学史研究室所蔵）は、内外の 2 円周上に比較的大きい開口部が少数並んでいることを、1986 年に増田直衛氏が Frankfurt 大学で撮影した写真が示している。2 円周型のものの方が 2 箇所に継起的に刺激を提示する仮現速度実験に適しているから、Schumann 式であっても 1 円周型の台湾大学所蔵の No.2 は、Wertheimer 使用のものとは別型と推測される。Passau 大学心理学史研究室 Gundlach 教授に問い合わせたところ、No.2 は Spindler & Hoyer 社の 1908 年のカタログに掲載の Schumann の旧型の Tachistoscope と判定された。また No.1 の Wundt 式振子型瞬間露出器は京都大学に現存する Zimmermann 製のものときわめて類似し、国際的にも数少ない貴重なものと判断される（芋阪，2000）。

また No.9 は破損しているが Zimmermann 社製の音の大きさの弁別実験用の音響振子であり、No.10 は Zimmermann 社のマークがついた Stern 式可変音響発生器であるが、京大所蔵の Max Kohl 製のものときわめて類似し、No.11 は Stoelting 製の Seashore の聴力測定器と推定されるが、同社製の京大所蔵のものとは若干形式が異なっている（芋阪，2000）。

感覚検査器、動作検査器なども多く、当時の台湾の中国系の人々、更にかつて高砂族と呼ばれた台湾原住民の人々と内地の日本人の能力特性の比較、並びに高温高湿下での作業能率にも関心が高かったことが推定される。No.4 は藤澤(1935)が円の中心の目測の研究に使用した大小 5 個のうちの 4 個であろう。No.5 の横長の機器は当初モノコード（一弦琴）と誤認したが、島津創業記念資料館所蔵の同社カタログ「性能検査器械」（1936）所載の目測計と判断される。No.24 の縦横に並んだ孔にピンを刺してい

く作業検査器は現在でも産業労働省の一般職業適性検査中に指先器用検査用に加えられているものに類似している。

<http://www007.upp.so-net.ne.jp/tkk/product/personality/psn1302.htm>

なお No.24 は京都の島津創業記念資料館所蔵の同社カタログ「普通教育理化学器械及薬品目録」(1929)P.207 所載の性能検査器械 5 のマッチボードに相当すると判断される。また No.27 の両手協応検査器は同カタログの P.209 所載の性能検査器 12 の共応動作検査器によく類似している。旋盤(工作機)作業を模した物であろう。ともに同資料館に現在展示されている。

ちなみに、旧台北帝国大学心理学研究室には通常の実験演習室、視覚室、防響室、反応時間室、テスト室のほかに温湿調節室、体力測定室があったことに注目すべきであろう(飯沼, 1934)。<http://taihokuteidai-psy.blogspot.com/>

そのほかネズミ用直線迷路、回転籠なども保存されていた。No.28 の回転籠については、旧台北帝国大学心理学研究室の最後の助手を務めた今井(1942)が各機関の研究所研究室報告中で台北帝国大学における主要活動の一つとして「回転踏み輪」中の白鼠の活動量に及ぼす遺伝、年齢、気温の影響の研究をあげているから、それに使用したものの可能性がある。他は戦後台湾大学設立後使用のものである可能性が高い。前記「文学院院长産調査表」には動物実験用の機器は見当たらない。

「文学院院长産調査表」にはこのほかにも多くの機器が記されており、計 200 点以上にのぼる。現存するのはその一部であるが、幸い歴代の管理者が比較的特色ある機器を残した模様である。専攻学生が極めて少なかった台北帝国大学心理学研究室にしては沢山の機器を所有しており、予算的に恵まれた研究室であったことが分かる。

国際的にも貴重な機器が多く、今後の適切な保管が強く望まれる。

本調査における国立台湾大学心理学系主任梁庚辰教授と同系教職員の方々ならびに高雄医学大学櫻井正二郎副教授の全面的なご協力に心から感謝したい。またドイツの Sarris 教授、Gundlach 教授のご教示にも深く感謝したい。

本調査は平成 15 - 17 年科学研究費補助金(基礎研究(B))課題番号 15402045(研究代表者 西川泰夫)の補助を受けている。

なおその後の梁教授のからの連絡により、同心理学系で台北帝大の遺産である反射計, Lehmann の目測計, Ebbinghaus の触覚計, Schultze の触覚計 ならびに Galton 笛が保存されていることが判明した。

#### 参考文献

- 飯沼龍遠(1934)台北帝国大学心理学研究室の落成 心理学研究 9, 195-196.  
今井義忠(1942)研究所研究室報告 台北帝国大学 心理学研究 17, 特輯 104-105.

藤澤 祐 (1935) 円の中心の目測に於ける変化誤差の座標 増田博士謝恩最近心理学論文集 岩波書店 Pp.66-72 .

大泉 溥 (2003). 心理学者事典 クレス出版

苧阪直行 (編著) (2000) 実験心理学の誕生と展開 京都大学学術出版会

Paulitsch, C. (2005) *Psychologische Apparate aus der Sammlung des Institutes für Geschichte der Psychologie, Universität Passau*. Universitätsverlag Passau.

Popplestone, J. A. & McPherson, M. W. (1994) *An Illustrated History of American Psychology*. Akron, OH: Univ. of Akron Press. (大山正(監訳)(2001) 写真で読むアメリカ心理学の歩み 新曜社)

Popplestone, J. A. & Tweney, R. D. (1997) *The Great Catalog of the C.H. Stoelting Company 1930-1937*. Delmar, NY: Scholars' Facsimiles & Reprints.

上村保子 (1964) ゲシュタルト心理学 梅本堯夫・大山 正 (編著) 心理学史への招待 サイエンス社 Pp . 203 - 218 .

吉村浩一 (2006) 運動現象のタキノミー ナカニシヤ出版